

# 大学生が徹底取材！ 業界の先輩に聞く「キャリアの話」

キャリアガイド30周年記念として、国際協力業界で働く社会人3名に、大学生がインタビューする企画を実施しました。国際協力業界のキャリアについて、リアルな話をたくさん語っていただきます。

今日はたくさん！  
お話を聞かせてください！

東京農業大学  
国際食糧農業科学研究所  
国際農業開発学専攻  
修士2年  
**樋水 秀樹 さん**  
ザンビア協力隊（コロナ禍で帰国）、地域おこし協力隊経験あり。  
ヤムイモを研究。  
本誌196ページに学校情報あり



聖路加国際大学  
看護学部3年  
**西岡 杏子 さん**  
フィリピンで医療環境を目的の  
当りにし、途上国の医療向上に  
役立ちたいと夢を持つ。  
本誌182ページに学校情報あり

飯島さん、雨宮さんは「キャリアガイド」を見て現職とのこと。本誌をご活用いただきありがとうございます！



飯島 一徳さん

そこで業界の有名である立山さんという方に出会い、自分には専門性がないことを相談したら、そんなの関係ないからって人を紹介してくれることになって、そこに行ったらもう面接になっていて(笑)、入社したのが今の会社です。  
**秋谷さん** 協力隊で「逆転ホームラン」を経験した人、多いですね。理想と現実のギャップを現地で見た上で、この業界でやっていきたいという自分の芯を改めて確認できるのだと思います。平和構築や難民支援な

\* 本誌44Pにて登場

独立行政法人国際協力機構(JICA)  
調達・派遣業務部 契約第三課  
**雨宮 美穂 さん**  
トンガ協力隊、民間企業の人事、商社を経て、契約社員として入構し、正職員に。  
本誌72ページに企業情報あり

株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング  
人事・総務部 部長  
**秋谷 真琴 さん**  
若手人材の育成を担当。派遣社員で入社し、正社員に。ジャカルタに住んだ経験も。  
本誌110ページに企業情報あり

株式会社国際テクノ・センター  
取締役  
**飯島 一徳 さん**  
入社13年目。ザンビア協力隊から帰国後、本誌を見て現在の会社に。専門は保険医療。  
本誌118ページに企業情報あり

ど、より国際協力的指向の高い分野の人は特に協力隊経験者が多いかもしれません。  
**雨宮さん** 私も協力隊でトンガに派遣されたのですが、元々の派遣先はバン格拉デシユでした。当時の治安の状況を鑑みて国が変わったんです。でも、4カ月間のバングラでの経験で自分がこの業界に興味があることを気付かされたし、今でも原体験として印象に残っています。  
**飯島さん** コンサルになって初めて途上国の現実にショックを受けるよ、若いうちに協力隊でショックを

協力隊での「逆転ホームラン」が原体験に  
どのような経緯で国際協力のお仕事をされていますか？  
樋水さん

**飯島さん** 大学在学中に1年間留学したアメリカで、バン格拉デシユの人の講演で貧困や児童売買について知り「そういう世界があるんだ」と興味を持ったのがきっかけです。大学卒業後はJICA海外協力隊（以下、協力隊）でザンビアへ。滞在中はキラキラした理想と現実の違いを見て、正直ちよつと嫌になった部分もあったのですが、帰国する直前に地方の小さいコミュニティスクールの子たちが感動的な送別会をしてくれて…。それが逆転ホームランになって、国際協力で食っていきいたいと思いました。

いざ帰国して情報を集めると「コンサルタント（以下、コンサル）に必要なのは語学力、専門性、社会人経験」ってみんな言うじゃないですか。だから、民間に就職して数年働こうと思って、いろいろな会社の採用試験を受けつつ、ある時「国際協力キャリアフェア」に参加したんです。  
キャリアフェアとは、国際協力のプロになるためのキャリアを形成するイベント（主催：国際開発ジャーナル社）。2002年から毎年秋に開催されている。2023年は11月25日（土）に開催予定。

受けて、それでもこの業界に入りたかったと思った方がブレないのはあるかもしれません。僕も、仕事で大変なことがあっても、ザンビアでの経験があるので国際協力がおもしろいって思えるところがあります。  
**専門性とキャリアアチェンジについて**  
国際協力業界で働くために、どの程度の専門性が必要ですか？  
西岡さん

**飯島さん** 僕も専門性が必要だと思っていました。今はあまりそこにこだわらなくてもよいというか、それが絶対条件ではないと考えています。  
**秋谷さん** 専門性がないとこの業界に入れないと思っっている若い世代の人は、たぶん多いですね。開発コンサルテイング企業は基本的に受注産業なので、一度会社として受注した案件を成功させるためのプロがコンサルだと思っています。そういう意味では、専門性というより、プロジェクトを運営して成功させることに手腕を発揮するタイプのコンサルもたくさんいらっしゃいます。もちろん、一緒に仕事をする専門家や大学の先生、相手国の政府やカウンターパートの人たちが専門分野について話すときに話についてい



秋谷 真琴さん

くための知識は必要です。でも、必ずしも高い専門性が必要というわけではないと思います。専門家は別にいますしね。

**飯島さん** コンサルは専門家ではないので、高い専門性が必要だったら専門家を連れてこればいい。どちらかというと浅く広くいろんなことに興味を持つことや、コミュニケーション能力が大切です。

実際に、大学でこれだけを勉強してきました！という子がコミュニケーションをうまく取れなかったり、TOEICのスコアは高いけど相手国の大臣に話をつけることができなかったりすると、コンサルとしては厳しいですよ。なので、専門性を磨かなければと言っている若い人を見ると、僕は「もっと遊ばばいいの」と思います。接客業のアルバイト

トもよさそうです。

**秋谷さん** 遊びや余白は必要ですよ。あとは、「最初の就職」も重要なポイントです。学生から最初に就職するときは真っ白なキャンパスに絵を描くようなもの。その経験や仕事の作法のようなものは明確に残りますし、後々のその人の引き出しにつながります。大学で学んだことより、自分の将来的な専門性とか強みになっている人も多く見えます。

**雨宮さん** 私は文系出身なのですが、今の調達・派遣業務部では商社での物を買って届けるという経験が活かせています。

**どちらかというと、大学の学びより社会人経験の方が重要でしょうか**



樋水さん

**飯島さん** 学んだことが無駄になることはないと思います。でもそこに固執してしまうのはもったいないですよ。

**雨宮さん** すべての経験が仕事に生かされると感じています。実際に、急ぎで現地に緊急の機材を届ける時、私の場合はバングラでの経験から目の前の困っている人を想像できるのが「じゃあ急いでやるか」というエンジンになります。

**秋谷さん** どんな経験も貴重ですよ



雨宮 美穂さん

ね。キャリアチェンジも多い業界です。大学で畜産を勉強したけどコンサルで交通に携わっている、大学院で新しい分野を学んでキャリアチェンジするなどさまざまです。

**飯島さん** うち保健分野専門の会社なのでキャリアチェンジは少ないですが、大きな会社、多分野の会社ではキャリアチェンジは多いですよ。

**秋谷さん** 例えば、当社のベテランのコンサルはもとも冷凍機器など機材関係が専門でしたが、機材つながらりて保健医療の分野にチェンジしました。また、エビの養殖が専門だった人は、釣りが好きでアフリカで釣りをしながら人脈を広げて、今は平和構築をやっています。

大学で勉強したことはもちろん大切ですが、社会人になって、若いうちに経験したことが自分の専門分

野やキャリアにつながるケースが多いかもしれません。

**採用担当が語る。必要な2つの資質**

**国際協力業界で働くために、必要な資質はありますか？**



西岡さん

**秋谷さん** この業界は分野も多種多様なので一概には言えませんが、心身ともにタフであることは必須ですね。いい意味での鈍感力も必要です。完璧を求めると疲れてしまうので、例えば、布に鋭い針を刺しても、小さな穴しかあきませんよね。でも、カナヅチならバールと大穴があくかもしれない。布が破れても気にしすぎずに思い切って行ける人の方が向いている業界かもしれません。

**雨宮さん** 鈍感力、共感します。仕事の相手先が途上国になる業界なので、基本的に予定通りに進みません。それをいちいち落ち込んでいると進まないで、うまくいかないなら別のプランに切り替える気持ちが必要です。

**飯島さん** 僕も最近、採用担当をしているので選考の基準を改めて考えてみましたが、日本語を正しく書く能力はかなり重視しています。多少英語力や職務経歴が不足していても、

文章力で採用することもあります。なぜかという、コンサルはJICAに報告書を出してOKをもらって報酬をいただく仕事だからです。論文のような堅苦しい文章ではなく、小学生とまではいなくても分野外の人が見てすんなり理解できる文章を書く力が必要です。

**秋谷さん** 同感です。当社も文章力は採用試験で必ず見ます。最近留学経験もあって英語力が高い人も多いですが、まずは日本語です。少なくともJICAの仕事をしていく上では日本語を書く場面が多いので、母語を日本語として育った人は日本語がちゃんとできることが前提です。

**飯島さん** メールの文章まで気を使っている人は、絶対ほかの仕事の精度も高いですよ。自分がアウトプットするものに責任を持つ習慣は、仕事をする上で大切です。

**英語に目が行きがちで、日本語は盲点でした。学生のうちから文章力をつけるために何をしたらよいでしょうか**



樋水さん

**飯島さん** 僕は文系だったので大学でその機会に恵まれていたのかもしれませんが、入社してすぐ、厳しい先輩に一字一句教えてもらいました。今も月報は4日間くらい使って仕上げ

ます。それくらいちゃんと書かないとすぐ怒られたからです(笑)。本を買って勉強するのもいいですが、身近な先生や先輩で文章を大事にしている人は絶対いるので、そういう人に教えてもらうのが近道だと思います。

**秋谷さん** 実際に文章を書いていくしかないですよ。当社でも若手がベテランに文章を真っ赤にしてもらっている場面が多々あります。本当に真っ赤だからみなさん泣きそうになっていきます(笑)

その積み重ねですね。最近JICAでもプロポーサルに文字数制限があるので、限られた文字数で言いたいことを伝える力は重要です。

**雨宮さん** 文章を読む力も大事かもしれないですね。ちゃんと解釈できてないと先に進めないのです。

**うちの大学ではアカデミックライティングで日本語、英語の文章を見てくれる先生がいるので、活用します！**



西岡さん

**飯島さん** すばらしいですね。絶対活用したほうがいいと思います。

**学生や20代もできる！キャリア形成**

**秋谷さん** 最近、若手向けのポジシ



樋水さん

自分が目指している業界で実際に働いている先輩方のお話は、とても勉強になりました。これから、より広い視野で進路を考えたいと思います！



西岡さん

将来について漠然と考えていましたが、今日のお話で具体的なことがたくさん聞けてよかったです。今からいろいろな経験をしたいし、それを深く噛み締めながら毎日を過ごしたいです



これからもたくさんの方のキャリアを見つめ、これから共に国際協力業界を歩む皆さんの「最初の一步」を後押しできる誌面づくりを目指します。ご協力ありがとうございます！

**民間コンサルタント企業の海外出張の頻度は？**

出張ベースのシャトル型では一度に2、3週間、年に計6カ月の海外滞在が平均。長期派遣で1年以上滞在するケースもある。

**やっぱり現場が好きですか？**

国際協力業界は、現場が好きの人が圧倒的に多い。家族のサポートがあれば性別も関係なく活躍できる。